

球児支える最後の夏

本部委員・相沢さんと仁木さん

大会の本部委員として長く選手を支えた相沢孝行さん(70)と仁木能業さん(69)が70歳の定年を前に最後の夏を迎えている。

相沢さんは1974年から審判委員として甲子園に参加。延長15回の熱戦となった同年の鹿児島県―東海大相模(神奈川)で外野審判を務めた。選抜大会で松井秀喜選手がいた星稜(石川)戦の球審も。「ストライクの判定をしようとした瞬間にバットが出てきた。すごい打者だと感じた」

近年は本部委員として大会を支え、日本高校野球連

盟の技術振興委員長として高校選抜チームのメンバー選考にもあたってきた。

仁木さんは徳島県高野連の理事長を務めた後、05年から本部委員に。代表校の引率を担当した。控え部員の不祥事が発覚したチームを担当した際は、試合前に「君らは一生懸命やってきた。元気を出して頑張ろう」と選手を激励した。

今大会はホームランポールに日付や名前などを記す係もしている。「選手にとって一生の宝物。誠心誠意書くようにしています」



本部委員の相沢孝行さん(左)と仁木能業さん

速報はデジタル版で

携帯サイト「朝日・日刊スポーツ」(月額105円、税込み)、au携帯専用「ニュースEX」(月額262円、同、登録初月無料)でも速報しています。



高校野球ファンへ、夏の甲子園の知識を試す「高校野球検定」を今年初めて開催。